

静岡市立静岡看護専門学校

# 講義要綱

令和7年度  
(2025)

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_



# 目 次

## I. 基礎分野

1 教育学	5
2 心理学	6
3 日本語表現	7
4 ものの見方・考え方	8
5 生物学	9
6 情報科学	10
7 健康とスポーツ(必修選択)	11
8 生命倫理学	13
9 家族社会学	14
10 暮らしと健康	15
11 外国語会話(必修選択)	16
12 英語	19
13 人間関係論	20
14 ピア・サポート論	21

## II. 専門基礎分野

解剖生理学 使用テキスト・参考文献	22
1 解剖生理学 I	23
2 解剖生理学 II	24
3 解剖生理学 III	25
4 看護のための人間論	26
5 生化学	27
6 病理学	28
病態生理と治療 使用テキスト・参考文献	29
7 病態生理と治療 I	31
8 病態生理と治療 II	32
9 病態生理と治療 III	33
10 病態生理と治療 IV	34
11 病態生理と治療 V	35
12 看護のための疾病論	36
13 微生物学	37
14 薬理学	38
15 臨床薬理学	39
16 看護サイエンス	40
17 保健医療論	41
18 栄養管理特論	42
19 社会福祉論 I	43
20 社会福祉論 II	44
21 法と関係法規	45
22 公衆衛生学	46

## III. 専門分野

1 看護の原理	47
2 看護のための認識論	48
3 看護の方法 I	49
4 看護の方法 II	50

5 看護の方法 III	51
6 看護の方法 IV	52
7 看護の方法 V	53
8 看護の方法 VI	54
9 看護の方法 VII	55
10 看護基礎力アップ演習	56
11 看護理論	57
12 地域と暮らしを知る演習 I	58
13 地域と暮らしを知る演習 II	59
14 家族の理解と看護	60
15 地域・在宅看護の展開 I	61
16 地域・在宅看護の展開 II	62
17 地域・在宅看護の探究	63
18 成人看護概論	64

成人看護の展開 使用テキスト・参考文献 65

19 成人看護の展開 I	67
20 成人看護の展開 II	68
21 成人看護の展開 III	69
22 成人看護の展開 IV	70
23 成人看護学習支援演習	71
24 老年看護概論	72

老年看護の展開 使用テキスト・参考文献 73

25 老年看護の展開 I	74
26 老年看護の展開 II	75
27 老年看護の展開 III	76
28 小児看護概論	77
29 小児看護援助論	78
30 小児看護の展開 I	79
31 小児看護の展開 II	80
32 母性看護概論	81
33 母性看護援助論	82
34 母性看護の展開 I	83
35 母性看護の展開 II	84
36 精神保健論	85
37 精神看護概論	86
38 精神看護の展開 I	87
39 精神看護の展開 II	88
40 看護マネジメント	89
41 医療安全	90
42 災害看護・国際看護	91
43 看護研究	92
44 看護実践力アップ演習	93

## IV. その他

学校カウンセリング	94
-----------	----



# 履修を始めるにあたって

## 1. 主体的な学習

学習の成果をあげるためには、単に授業に参加するだけではなく主体的な学習が必要となります。自発的で積極的な学習が行われてこそ、豊かな学びができます。ゆえに、教科書はもちろん、授業で提示した参考文献や図書室にある関連図書を読んだり、教員や先輩・友人とのディスカッション等を通じて学びあい、深めていきましょう。

## 2. 卒業要件

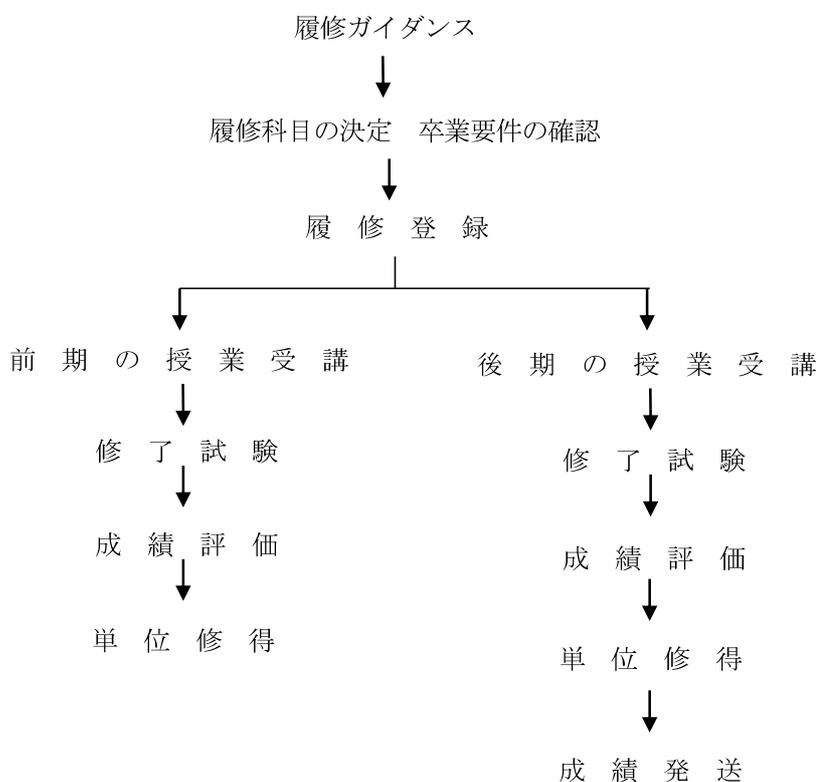
本学に3年以上在学し、以下に示した単位を修得することで、①専門士の称号、②看護師国家試験の受験資格③保健師・助産師学校の受験資格を得ることができます。

〈新カリキュラム〉

卒業単位数 — 106 単位

領域	単位数
基礎分野	14 単位
専門基礎分野	22 単位
専門分野	47 単位
臨地実習	23 単位

## 3. 履修のながれ



## 4. 教育課程

### 1) 講義・演習科目

**基礎分野**は、専門基礎分野、専門分野の基礎として位置づけ、幅広いものの見方や考え方、看護を学ぶ上で必要な人間や人間の生活の理解をしていきます。教育内容は、「科学的思考の基盤」と「人間の生活・社会の理解」で構成されています。自ら選択できる「必修選択科目」もあります。

**専門基礎分野**は、看護学を学ぶ上で基礎となる3つの教育内容で構成されています。人間の日常生活行動を援助する際に必要な生命活動を認識できるための「人体の構造と機能」、健康障害の病態生理や治療を障害別とし援助の根拠の理解へと関連づけられるための「疾病の成り立ちと回復の促進」、人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて、社会資源を活用できるように知識や基礎的能力を養う「健康支援と社会保障制度」で構成されています。

**専門分野**は、基礎看護学、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、看護の統合と実践の領域別に看護実践の理論と方法を学びます。「ナイチンゲールの理念」を継承した教育内容を、積み重ねながら学習できるように構成されています。

### 2) 必修科目・選択必修科目

すべての科目は、必修科目・必修選択科目のいずれかに指定されています。

- (1) 「必修科目」とは、それを履修することが義務づけられている科目のことで、この科目の単位が未修得の場合は、卒業認定が受けられません。
- (2) 「必修選択科目」とは、指定された科目の中から希望するクラスを任意に選択して履修することが義務づけられている科目のことで、この科目の単位が未修了の場合は卒業認定が受けられません。

### 3) 授業の形態

本学では、学期制を導入しています。学期制とは、15週を単位に授業を登録し、定期試験を実施後、「単位認定」をする制度です。授業科目は原則として、前期(4月)後期(10月)毎に開講されます。また、クラスは教育上の効果を考慮して受講者を適当な規模の集団に分けたものです。

### 4) 出席

授業内容を理解するためには、平素の授業への出席が必要なことはいまでもありません。出席時間数が不足した場合には定期試験の受験資格が与えられず、単位が認定されないので注意してください。

### 5) 休講・授業変更

各授業担当者において、やむをえない事情により授業を休講、または変更することがあります。休講または変更があった場合は、掲示板に掲示します。ただし、急な変更が生じた場合は Google Classroom にて連絡します。確認しないことで生じる不利益事項は、救済の対象にはなりません。また、電話での問い合わせには応じません。

## 5. 単位と成績

### 1) 単位

本学での学修は、すべて単位制になっています。単位は、学修の量を数字であらわすもので、単位数は授業科目によって異なります。授業形態は、講義・演習・実習があります。単位制とは、科目の授業を受け、試験に合格した場合、定められた単位が与えられる制度のことです。すべて、この単位数によって、学修の達成度が計算され、その単位の合計が一定数を満たし、卒業要件のための諸要件を充足した者に対し卒業認定が行われます。単位の認定には、次の要件が必要です。①単位認定を受けようとする科目について、履修登録がされている ②授業に出席し、履修に必要な学習がされている ③科目の試験を受験し(レポート・論文・筆記試験・授業態度等)その試験に合格したものです。

### 2) 再試験・追試験

再試験は合格点に満たない場合実施されるものです。  
追試験は、やむを得ない事情により、受験ができなかった場合に実施されます。また追試験の再試験は実施しません。個人の責任において「再試験受験願」「追試験受験願」を提出し、受験の機会が得られます。学校便覧を熟読しておきましょう。

試験時間に 15分以上遅刻した場合の受験は認められません。

### 3) 成績

成績評定は、筆記試験の他レポート・実技・平素の学習状況によって行われます。評定は、S・A・B・C・Dの5区分で表します。成績通知は、後期終了時に学生および父母等へ送付します。

## 6. 科目の履修手続き

### 1) 履修科目登録時の留意事項

履修科目の登録に際しては、講義要綱を熟読の上、決定してください。

- (1) 4月の履修登録期間に前期、後期に履修する科目のすべてを登録します。
- (2) クラス指定のある科目は、指定されたクラスの指示に従ってください。
- (3) 同一時間帯に2科目以上履修することはできません。
- (4) 指定された提出日に履修登録をしない場合は、当該年度の受講・受験権利を放棄したとみなします。
- (5) 履修登録科目は、各年次別に配当されている科目で、その年次に開講している科目および学年別配当科目より低学年の配当科目です。

### 2) 履修登録票記入上の留意事項

次の記入上の注意を熟読し、間違いのないように記入し登録を行って下さい。

- (1) 履修登録は、履修登録票に学籍番号・学生氏名・単位数を記入して提出して下さい。  
(ボールペンで記入すること)
- (2) 必修選択科目、自由履修科目は、各自希望する科目を選択して記入してください。

- (3) 未履修の科目と当該年次で履修すべき科目とが授業時間割上、同一期限内に重複している場合は、未履修の科目を優先して履修してください。
- (4) 修得科目で聴講を希望する場合は、記入欄に「聴講」と記入してください。その場合、合計単位数には含みません。
- (5) 記入した履修登録票は、コピーして原簿を提出し、コピーしたものは各自保管して下さい。
- (6) 既修得単位の認定は、指定の期日までに必要な手続きを行ってください。また、担当講師の認定が決定されるまで該当の講義は受講してください。

※ 聴講の手続きをした科目には、必ず出席してください。

※ 出席状況によっては、担当講師の判断で聴講を認めない場合があります。

# I. 基 礎 分 野



## 必修科目(1)

科目	教育学	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	中村 美智太郎
講義の概要および学習目標	<p>1. さまざまな困難をかかえる今日の教育問題を素材として、教育学の基本原理を歴史と思想のふたつの視点から学び、考えを深め、また自らの言葉で説明することができる。</p> <p>2. 私たちの社会における現在の子ども・おとなをめぐる諸環境について、その起源を探りながら認識を深め、人間を対象とする職業に従事する者として必要な基礎的知識の獲得と基本的資質の形成を図り、自らの言葉で説明することができる。</p>								
講義内容	<p>1～4 人間形成と教育の意味…動物と人間/発達とは/教育とは/教育の逆機能</p> <p>5～6 教育の目的・理念(1)…教育目的/「よい」教育目的</p> <p>7 中間まとめ</p> <p>8～10 教育の目的・理念(2)…「学力」とは/「学力」を高める学習デザイン/学びの動機づけとディスカッションの方法</p> <p>11～12 教育思想の展開…古代から近代へ/近代から現代へ</p> <p>13～14 現代社会と教育の問題…教員の現状と国際比較/新しい教育方法の可能性</p> <p>15 最終まとめ</p>								
評価法	<p>定期の筆記試験のほか、課題レポートの提出、出席状況および授業態度等による総合評価で行う</p>								
受講生への要望	<p>講義の内容についての質問や疑問があれば授業中に積極的に発言してほしい。それができない場合は「質問票」を有効に活用してほしい。</p> <p>市販の教科書は使用しないで「テキスト資料」を配付するので、それを読んでおくようにしてほしい。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 特に指定しない</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所 特に指定しないが、講義内で適宜紹介する</p>								

## 必修科目(2)

科目	心理学	単位	1	時間数	30	開講期	1年後期	担当者	田辺 肇
講義の概要および学習目標	<p>こころのケアや精神保健の領域に限らず、人の体験と行動がどのような過程を経て生じるのか、あるいはその過程にはどのような傾向や法則があるのか、について知ることは、看護実践を進める上で不可欠の知識といえる。</p> <p>本講義では、人の体験と行動の発生と発達の過程、法則、背景メカニズムや適応的意義など、心理学の基本的な知識の習得を目的とする。</p>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理学における人間理解①心理学とは(心理現象と心理メカニズム、意識と行動)</li> <li>2 感覚と知覚</li> <li>3 記憶・自己</li> <li>4 心理学における人間理解②研究法(共感的理解と客観的理解、理論とモデル、科学とエビデンス、相関と因果、調査と実験)</li> <li>5 思考・言語・知能</li> <li>6 学習</li> <li>7 感情と動機づけ・報酬系</li> <li>8 性格とパーソナリティ</li> <li>9 社会と集団</li> <li>10 発達</li> <li>11 心理臨床①(ストレス・アセスメント・精神障害)</li> <li>12 心理臨床②(心理療法・危機介入・家族・コミュニティ)</li> <li>13 医療・看護と心理</li> <li>14 心理学における人間理解③(心理学史:心のモデル)</li> <li>15 試験・まとめ</li> </ol>								
評価法	終了試験(選択肢から選ぶ客観試験)の成績により評価する								
受講生への要望	毎回レスポンスシートの提出を求める。それに応じて授業を展開する。好奇心をもって積極的に授業に参加して欲しい。								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1) 系統看護学講座 基礎分野 心理学／山村豊 他／医学書院</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1) 新体系看護学全書 基礎科目 心理学／メヂカルフレンド社</p> <p>2) はじめて出会う心理学[第3版]／長谷川寿一ら／有斐閣</p>								

### 必修科目(3)

科目	日本語表現	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	武士俣 勝司		
講義の概要および学習目標	<p>将来、医療現場で、「いい仕事」をすることを通して、「いい人間」になることを目指して下さい。そのためには、医師、同僚看護師、技術者、そして患者さんとの対話・コミュニケーションが、何よりも大切です。きちんと聞き取ること、伝える事が求められます。会話だけでなく、しっかりとした文書による伝達も求められます。出来るだけ簡潔かつ的確に伝達されなければなりません。そのために用いられる「ことば」の意味と機能を理解しておく必要があります。</p>										
講義内容	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 医療と言葉</li> <li>2 言葉の発生と意義</li> <li>3 日本語の特性</li> <li>4 二重言語の演習</li> <li>5 日本文化の特性</li> <li>6 文章の論理(1)</li> <li>7 文章の論理(2)</li> <li>8 ミニ論文の作成</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>9 論文の作成</li> <li>10 日本語と敬語法(1)</li> <li>11 日本語と敬語法(2)</li> <li>12 文章表現法(1)</li> <li>13 文章表現法(2)</li> <li>14 コミュニケーションの方法と文書作成</li> <li>15 最終レポート(看護と言葉)</li> </ul> </td> </tr> </table>									<ul style="list-style-type: none"> <li>1 医療と言葉</li> <li>2 言葉の発生と意義</li> <li>3 日本語の特性</li> <li>4 二重言語の演習</li> <li>5 日本文化の特性</li> <li>6 文章の論理(1)</li> <li>7 文章の論理(2)</li> <li>8 ミニ論文の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9 論文の作成</li> <li>10 日本語と敬語法(1)</li> <li>11 日本語と敬語法(2)</li> <li>12 文章表現法(1)</li> <li>13 文章表現法(2)</li> <li>14 コミュニケーションの方法と文書作成</li> <li>15 最終レポート(看護と言葉)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>1 医療と言葉</li> <li>2 言葉の発生と意義</li> <li>3 日本語の特性</li> <li>4 二重言語の演習</li> <li>5 日本文化の特性</li> <li>6 文章の論理(1)</li> <li>7 文章の論理(2)</li> <li>8 ミニ論文の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9 論文の作成</li> <li>10 日本語と敬語法(1)</li> <li>11 日本語と敬語法(2)</li> <li>12 文章表現法(1)</li> <li>13 文章表現法(2)</li> <li>14 コミュニケーションの方法と文書作成</li> <li>15 最終レポート(看護と言葉)</li> </ul>										
評価法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間に書く「小レポート」の評価の集積と論文(3回)で評価します。</li> <li>・出席状況・授業態度等も評価に加味します。</li> </ul>										
受講生への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間終了後、講義のまとめ(小レポート:200字程度)を書いて提出してもらいます。その内容を生かして、講義を組み立て、理解を深めていきます。小レポートは、毎時評価して返却します。その評価点の集積で単位認定するので、毎時の授業とレポートに集中して下さい。</li> <li>・授業中においては、携帯(電話)の使用は不可とします。</li> </ul>										
テキスト	書名／著者名／発行所										
参考文献	書名／著者名／発行所										

### 必修科目(4)

科目	ものの見方・考え方	単位	1	時間数	15	開講期	3年前期	担当者	宮地 祐司
講義の概要および学習目標	<p>「見えない」ものを認識するにはどうしたらいいのか、どうすると本当のことがわかるのか、どうやったら問題を解決できるのか……などについての認識論や組織論の科学的・哲学的な入門とする。</p>								
講義内容	<p>認識論、実験論、発想法、組織論などを「具体的な体験」を通して、考え、学んでいく。2日間の集中講義形式。具体的な講義項目を先に明らかにすると〈学ぶたのしさ〉が減退してしまうため、ここでは詳細はあえて記すことはしない。</p>								
評価法	<p>講義の最後にまとめの試験を行う予定。</p>								
受講生への要望	<p>情報の「消費者」だけではなく、情報の「生産者」となって欲しい。そのためには自分の意見と感性を率直に表現でき、自分や他人の間違いから学ぶ、ほんの少しの勇気を持って、しかし気楽に発言し授業に参加することを要望する。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 使用しない。講義の時にプリントを配布。</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所 1)「新哲学入門」／板倉聖宣／仮説社 2)「発想法かるた」／板倉聖宣／仮説社 3)「科学的とはどういうことか」／板倉聖宣／仮説社</p>								

## 必修科目(5)

科目	生物学	単位	1	時間数	30	開講期	1年 前期	担当者	新里 昌功
講義の概要および学習目標	<p>生物学は、これから勉強する専門基礎分野・専門分野のすべての科目を学習するために共通して必要となる基礎科学です。生物学の目指すところは、生命を維持・継承するための巧妙なシステムの面白さを理解することにあります。そのためには、生命現象の原理原則を理解し、専門用語の意味を覚える必要があります。</p> <p>[学習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生物・生命現象の一般原理・概念や基礎用語について理解を深め、生物学の基礎力をつける。</li> <li>2 新たな医療技術や概念に接した際に、興味をもって理解し、さらに考える素養を養う。</li> </ol>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生命と細胞</li> <li>2 細胞、生体維持のエネルギー</li> <li>3 細胞の増殖とからだのなりたち</li> <li>4 遺伝情報</li> <li>5 遺伝情報の伝達と発現のしくみ</li> <li>6 変異、遺伝、遺伝子組換え</li> <li>7 生殖と発生</li> <li>8 個体の調節</li> <li>9 免疫、排出、神経・液性相関</li> <li>10 刺激の受容と行動</li> <li>11 神経系の系統的発達、効果器、行動</li> <li>12 生命の進化と多様性</li> <li>13 生物と環境のかかわり</li> <li>14 地球環境とヒトとの共存</li> <li>15 まとめ 終了試験</li> </ol>								
評価法	筆記試験により評価します。								
受講生への要望	生物学では、ことばの意味を考えて覚えていきましょう。								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1) 系統看護学講座 基礎分野「生物学」／高畑雅一 他／医学書院</p>								
参考文献	書名／著者名／発行所								

## 必修科目(6)

科目	情報科学	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	鐵 和 弘
講義の概要および学習目標	<p>近年、情報化の波は医療・看護の分野にも及んでいます。そのため、看護の現場でも「情報リテラシー」を持つことが必要となっており、日々の仕事において医療情報や患者情報の収集・分析・処理を行う能力が求められています。</p> <p>本講義では、講義のおよそ3分の2をPCと各種ソフト(Word, Excel, PowerPoint)を使った実習に充て、データの処理・分析に関する基礎的な技能の習得を目指します。その後の3分の1程度で、情報科学の基礎的な概念、医療・保健・看護の領域における情報化の事例、看護の現場で発生しうる情報保護等の法的・倫理的諸問題を取り上げ、重要な概念の理解と必要な知識の習得を目指します。</p>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本講義のガイダンス:オリエンテーション、実習環境(機器等)の説明</li> <li>2 実習① Wordを使った文書処理</li> <li>3 実習② Wordを使った図形・オブジェクト操作等</li> <li>4 情報と倫理(1)、Wordの利用に関する実習テスト</li> <li>5 情報と倫理(2)、実習③ PowerPointの使用方法</li> <li>6 情報と倫理(3)、実習④ Excelの利用とデータ収集</li> <li>7 学生によるPowerPointを使用したプレゼンテーション大会</li> <li>8 情報と倫理(4)、実習⑤ Excelを使用したデータの解析</li> <li>9・10 情報と倫理(5)(6)、実習⑥⑦ Excelによる統計処理</li> <li>11・12 実習⑧⑨ Excelを使ったデータベース操作</li> <li>13 Excelの利用に関する実習テスト</li> <li>14 情報科学の基礎、医療・看護領域における情報システム利用</li> <li>15 期末試験</li> </ol> <p>(受講生の習熟度等を見た上で、順序や進度を変更することもあります)</p>								
評価法	<p>期末試験(40%)、期中の課題(3回)提出(30%)、出席・受講姿勢等(30%)で評価します。</p>								
受講生への要望	<p>15回の授業にただ出席するだけでは、看護に必要となる情報関係の知識・技能を完全に習得することは困難です。したがって、講師がその都度指示する予習・復習と課題作成を確実に行ってください。また、PCによるデータ処理が苦手な人は、積極的に自習で補ってください。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所            1) 系統看護学講座 別巻「看護情報学」／中山・瀬戸山 他／医学書院            ※USBメモリ(学校専用)を使用するので持参してください。</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所            1)「エッセンシャル看護情報学」／太田・前田編著／医歯薬出版            2)「看護・医療系のための情報科学入門」／椎橋・有田／サイオ出版</p>								

必修選択科目(7-1)

科目	健康とスポーツ ストレッチング	単位	1	時間 数	30	開 講 期	1年 後期	担 当 者	鈴木 しげこ
講義 の 概 要 お よ び 学 習 目 標	<p>健康(ヘルス)と、体力(フィットネス)の在り方を、体験し理解します。 単にキツイ・辛い運動ではなく、生涯に渡って楽しめる個人の体力差や嗜好性を考慮したストレッチ手法や、エンターテイメント性の高い様々なスタイルの運動を経験します。グループディスカッションで、仲間と交流しながら想像力を高め、人に寄り添う能力を養います。著名な運動指導者ピラティスが、世界一次大戦中に看護師をしながら運動も指導していたように、講義と実践を通じて健康観を高めます。</p>								
講義 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ストレッチとは 効果と原理 自信が付くPNFストレッチ</li> <li>2 アクティブストレッチ① 股関節(下肢)</li> <li>3 アクティブストレッチ② 肩関節(上肢)</li> <li>4 アクティブストレッチ③ 体幹部</li> <li>5 エンターテイメント リズミックストレッチ①(Halloween編)※</li> <li>6 アクティブストレッチ まとめ</li> <li>7 スタティクスストレッチとSMR①(頸部と腰)</li> <li>8 スタティクスストレッチとSMR②(頸部と腰)</li> <li>9 リズミックストレッチ②(Christmas編)</li> <li>10 リズミックストレッチ③(Christmas編) グループテスト※</li> <li>11 身体と心と呼吸を繋ぐ①(ヨガとは?ピラティスとは?)</li> <li>12 身体と心と呼吸を繋ぐ②(呼吸の原理)</li> <li>13 身体と心と呼吸を繋ぐ③(バランスとプロプリオセプティブ固有受容感覚)</li> <li>14 身体と心と呼吸を繋ぐ④(総合的ストレッチの実際)</li> <li>15 全体を通してのまとめ パーソナルテスト ※印はスケジュールにより日程変更の可能性あり</li> </ol>								
評 価 法	<p>授業態度と理解力・出席状況等による総合評価 特に休まないことは、自己の健康管理が充分なされていることで、高く評価される。</p>								
受 講 生 へ の 要 望	<p>&lt;持ち物&gt; 筆記用具とタオルor手ぬぐい &lt;服 装&gt; 運動のできる服装(Gパン不可)、裸足 &lt;当 番&gt; 鍵開け・デッキ準備・出欠席確認・忘れ物管理・消灯確認と施錠 ・フィジカル(肉体)な出来栄えより、積極的なアチチュード(受講態度)を高く評価します。 ・欠席・遅刻は止むを得ないケースを除き、大きく評価に影響します。 ・体調不良の欠席は、健康管理不十分として評価に影響します。座学受講可能な場合は欠席せず見学を勧めます。</p>								
テ キ ス ト	<p>書名/著者名/発行所  使用しない</p>								
参 考 文 献	<p>書名/著者名/発行所 1)系統看護学講座 専門基礎分野「解剖生理学」/酒井建夫 他/医学書院</p>								

## 必修科目(7-2)

科目	健康とスポーツ 球 技	単 位	1	時 間 数	30	開 講 期	1年 後期	担 当 者	鉄 多加志
講 義 の 概 要 お よ び 学 習 目 標	<p>科目名にある「健康」は、スポーツと運動していることが多く、それは習慣化することによって思いのほか、恩恵を受けることができます。しかしながら、その習慣を上手く体得できないと、思いもよらぬ傷病に自分自身が苦しむこととなります。</p> <p>運動と頭脳の関係性は深く、適度なフィジカルトレーニングは能率的な勉学の支えにもなりますので、この授業が終えても継続的な自己研鑽を希望します。</p> <p>この「健康とスポーツ」では、日頃の運動不足を解消し、身体健康や体力の向上・維持・増進をねらいとし、積極的に身体を動かすことで汗をかき、新陳代謝を活発にすると共に、心身に感じるストレスを解消させ、身近な運動を通じて身体を動かすことの楽しさや爽快感を知り、「生涯スポーツ」に繋がるような指導をします。</p> <p>最後に、人の健康をあずかる者は、自分自身が先んじて健康でなければなりません。看護の第一歩として、心身の健康について見つめなおす時間と考へ、この授業を活用してみてください。</p>								
講 義 内 容	<p>1時限 : オリエンテーション(授業内容の説明・・・健康とは何か？運動の必要性、評価法等) * 以後の種目については、履修者の人数により変更する場合があります。</p> <p>2～3時限 : ボールを使った運動</p> <p>4～6時限 : グランドゴルフ</p> <p>7～10時限 : ドッジボール(練習・ゲーム)</p> <p>11～14時限 : テニス(基本練習から行い、未経験者でも楽しめるような指導します。)</p> <p>15時限: 総括と筆記試験</p> <p>* 雨天の場合は、屋内にて、呼吸法や自重負荷トレーニング、応急処置法を交えた講義を行う予定です。</p>								
評 価 法	<p>出席状況(健康管理)、授業態度(取り組む姿勢等)による総合的な評価をします。 運動能力の優劣については重要視しません。</p>								
受 講 生 へ の 要 望	<p>運動に適した服装(ジャージやスエットの上下等)、運動靴(外用)、を用意して下さい。 極力、見学や欠席をせずに、楽しく積極的に身体を動かすように各自、取り組んで下さい。</p> <p>※詳細は、初回のオリエンテーションにおいて説明をします。</p>								
テ キ ス ト	<p>書名／著者名／発行所 指定書籍なし</p>								
参 考 文 献	<p>書名／著者名／発行所 健康・フィットネスと生涯スポーツ/東海大学一般体育研究室/大修館書店</p>								

## 必修科目(8)

科目	生命倫理学	単位	1	時間数	15	開講期	3年前期	担当者	浜渦 辰二
講義の概要および学習目標	<p>看護学生にとって必要な生命倫理学の基本的な問題を紹介し、ともに考える。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護にとっての生命倫理の大切さを学ぶ。</li> <li>2. 歴史を踏まえながら 現代医療において何が問題になっているかを学ぶ。</li> <li>3. 具体的な場面と原理的な考察とを往復しながら考えることを学ぶ。</li> </ol>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 倫理・倫理学とは</li> <li>2 生命倫理・生命倫理学とは</li> <li>3 患者の権利と自己決定権</li> <li>4 インフォームド・コンセント</li> <li>5 生殖の生命倫理</li> <li>6 不妊治療と人工妊娠中絶</li> <li>7 死の生命倫理</li> <li>8 終末期医療</li> <li>9 移植医療</li> <li>10 再生医療</li> <li>11 遺伝子医療</li> <li>12 医療資源と医療保険制度</li> <li>13 看護理論</li> <li>14 専門職の倫理</li> <li>15 補足と期末テスト</li> </ol>								
評価法	積極的な授業参加と筆記試験								
受講生への要望	問題を解決するマニュアルを求めるのではなく、問題を自分で考え、みんなと一緒に考えることを学んで欲しい。								
テキスト	書名／著者名／発行所 系統看護学講座別巻『看護倫理』／宮坂道夫ほか／医学書院								
参考文献	書名／著者名／発行所								

必修科目(9)

科目	家族社会学	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	冬木 春子																
講義の概要および学習目標	<p>現代において、日本の家族が直面している問題を社会の変化に関連づけながら学習し、これからの家族関係や地域社会のあり方について考えることをねらいとする。授業を通じて、これまで抱いている家族イメージから離れ、家族を見る方法を取得し、家族と社会の実態についての理解を深めてもらいたい。</p>																								
講義内容	<p>下記のテーマについて授業を行う。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 「家族」とは何か</td> <td>8 離婚・再婚と家族</td> </tr> <tr> <td>2 社会変動と家族の変化①</td> <td>9 母親の子育て</td> </tr> <tr> <td>3 社会変動と家族の変化②</td> <td>10 父親の子育て</td> </tr> <tr> <td>4 社会変動と家族の変化③</td> <td>11 貧困と社会</td> </tr> <tr> <td>5 配偶者選択</td> <td>12 エコマップを用いた家族援助</td> </tr> <tr> <td>6 産む、産まないということ</td> <td>13 現代家族とストレス</td> </tr> <tr> <td>7 ドメスティックバイオレンス</td> <td>14 高齢社会と家族</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15 テスト</td> </tr> </table>									1 「家族」とは何か	8 離婚・再婚と家族	2 社会変動と家族の変化①	9 母親の子育て	3 社会変動と家族の変化②	10 父親の子育て	4 社会変動と家族の変化③	11 貧困と社会	5 配偶者選択	12 エコマップを用いた家族援助	6 産む、産まないということ	13 現代家族とストレス	7 ドメスティックバイオレンス	14 高齢社会と家族		15 テスト
1 「家族」とは何か	8 離婚・再婚と家族																								
2 社会変動と家族の変化①	9 母親の子育て																								
3 社会変動と家族の変化②	10 父親の子育て																								
4 社会変動と家族の変化③	11 貧困と社会																								
5 配偶者選択	12 エコマップを用いた家族援助																								
6 産む、産まないということ	13 現代家族とストレス																								
7 ドメスティックバイオレンス	14 高齢社会と家族																								
	15 テスト																								
評価法	<p>授業への参加度、期末テストを総合して評価をします。</p>																								
受講生への要望	<p>内容は一部変更することもあります。          質問は授業終了後をお願いします。          グループワークなども行いますので、積極的に授業に参加をして下さい。          予習・復習は教科書の該当するページを指定しますので、それを読んで下さい。</p>																								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所          1)三訂 新しい家族関係学 /長津 美代子 他/建帛社</p>																								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所          1)系統看護学講座 別巻「家族看護学」/上別府圭子 他/医学書院          2)「問いからはじめる家族社会学」/岩間 暁子 他/有斐閣</p>																								

必修科目(10)

科目	暮らしと健康	単位	1	時間数	20	開講期	1年後期	担当者	牧野 陽子
----	--------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-------

講義の概要および学習目標	自立した生活者としての社会で生活していくために必要な基礎的な、家族関係、食生活、衣生活、住生活、社会通念としての一般常識を学習することを目的とします。
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 家庭生活の経営と管理・家族とは、家族の機能、経営</li> <li>2 衣生活・衣服の役割と機能、TPOと衣服選択、管理</li> <li>3 食生活・食とは、食生活の変遷、健康と栄養、環境と食</li> <li>4 住生活・日本の住居の変遷、住まいの機能、生活と住まい 一般常識・社会での常識、通過儀礼</li> </ol>
評価法	出席状況、授業態度、課題提出等による総合評価で行う。
受講生への要望	
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1)福祉ライブラリ生活支援の家政学／井上千津子 他編著／建帛社</p>
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1)「辰巳芳子のことごとふっくらまめ料理」／辰巳芳子／農文協</p> <p>2)「あなたのためにーいのちを支えるスープ」／辰巳芳子／文化出版局</p> <p>3)「窓を開けなくなった日本人ー住まい方の変化六〇年」／渡辺光雄／農山漁村文化協会</p> <p>4)メント・モリ／日野原重明／海竜社</p> <p>5)ナイチンゲールの「看護覚え書」／金井一薫／西東社</p>

必修選択科目(11-1)

科目	外国語会話 英会話	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	Bruce Cunningham
講義の概要および学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英会話の基本文法の習得</li> <li>・日常会話における単語学習</li> <li>・リスニング習得</li> <li>・英語での問答</li> </ul>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己紹介</li> <li>2 形容詞を使った説明文</li> <li>3 名詞と副詞の使い方</li> <li>4 前置詞の使い方</li> <li>5 道案内</li> <li>6 動詞の変化 過去 過去分詞</li> </ol>								
評価法	スピーキングテスト 説明能力 質問文作成能力 質問の答え方								
受講生への要望	積極的にクラスに参加し会話する。 授業に集中し楽しくクラスに参加する。								
テキスト	書名／著者名／発行所 1) Speaking of Nursing / Peter Vincent, Alan Meadows / 南雲堂								
参考文献	書名／著者名／発行所								



### 必修選択科目(11-3)

科目	外国語会話 中国語会話	単位	1	時間数	30	開講期	1年 前期	担当者	趙 湘紅
講義の概要および学習目標	簡単な中国語会話の勉強を通じて、中国の文化、風土、地理などを学ぶ。								
講義内容	1・2・3 発音の基本の紹介 4・5・6 あいさつ、自己紹介、時刻の言い方 7・8 動詞、形容詞の述語文の使い方 9・10 疑問文、否定文などの使い方 11・12・13・14 日常会話場面練習 15 テスト								
評価法	会話練習中心の授業なので、日常の出席状況を重視する。 期末筆記試験のほか、出席状況、授業態度等による総合評価で行う。								
受講生への要望	遅刻せず、休まず出席すること。 授業中積極的に会話に参加すること。 時間外に自習を行い、練習時間不足を補ったほうが良い。								
テキスト	書名／著者名／発行所 1)「新ゼロからスタート 中国語会話編CD付」／壬丹／Jリサーチ出版 2)「デイリーコンサイズ 中日・日中辞典」／杉本達夫・牧野英二・古屋昭弘[共編]／三省堂  *2)については、学校所有の辞書を使用するため、個人で購入する必要はありません								
参考文献	書名／著者名／発行所								

## 必修科目(12)

科目	英 語	単位	1	時間数	30	開講期	2年 前期	担当者	河村 道彦
講義の概要および学習目標	<p>医学・医療の国際化とともに医療従事者の英語力の養成が求められている。このコースは看護学生に必要な基本的な英語の知識と医療・看護に関わる語彙、表現を身につけ、簡単な英文の理解、表現ができるようになることを目標とする。</p>								
講義内容	<p>英語の基本的な発音、語彙、文法事項の確認                      看護英語の表現・語彙の導入                      医療現場におけるモデル会話とその演習                      医療・看護に関する英文の講読</p>								
評価法	<p>中間テスト、期末テスト各50%の割合で評価したものを基本とし、平常点にもとづき、これに最大20%の加減を行う。</p>								
受講生への要望	<p>①毎時きちんと予習をして授業に臨むこと                      ②授業には辞書を持参し、意味や発音の分からない語は、その都度調べること                      ③授業や予復習において不明な点があれば質問すること</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所                      1)Lifesaver, New Edition /Maki Inoue, Toshiya Sato/ネリーズ</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p>								

必修科目(13)

科目	人間関係論	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	中川 雄真
----	-------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-------

講義の概要および学習目標	<p>授業では、講義中心に対人関係に纏わる人間の心理を理解する上での重要な理論を説明する。適宜、「自己理解」「他者理解」「集団理解」を目的としたグループ討論・事例検討を行う予定である。</p> <p>「講義の目標」 看護場面では、日常場面における人間関係とは異なる特殊な関係性が生まれる。また、看護場面における特殊な人間関係には、ポジティブな面だけでなくネガティブな面も顕著に現れる可能性がある。したがって、人間関係論では、日常場面から看護場面に至る人間関係の心理を概観し理解を深め、円滑な人間関係を構築できるようなスキルを習得することを目指す。</p>
講義内容	<p>第1回 人間関係の多様性 第2回 人間関係の中の自己と他者 第3回 対人関係と役割 第4回 態度と対人行動 第5回 集団と個人 第6回 コミュニケーション 第7回 カウンセリングと心理療法 第8回 コーチング 第9回 アサーティブ-コミュニケーション 第10回 保健医療チームの人間関係 第11回 患者を支える人間関係 第12回 家族を含めた人間関係 第13回 地域をつくる人間関係 第14回 カウンセリングの事例検討 第15回 人間関係論の総括 定期試験</p>
評価法	定期試験60%、レポート20%、授業態度20%
受講生への要望	積極的な参加を求めます。
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 1) 系統看護学講座 基礎分野「人間関係論」／長谷川 浩／医学書院</p>
参考文献	

## 必修科目(14)

科目	ピア・サポート論	単位	1	時間数	15	開講期	1年 前期	担当者	山口 権治
講義の概要および学習目標	<p>ピア・サポート、カウンセリングの基礎及び技法を学習します。体験学習の過程で、ピア・サポート、構成的エンカウンター、ソーシャルスキルなどを通じて、人間理解と他者支援の実践的な態度の養成を図ります。ロールプレイでは、振り返りにより実習の深まりを評価検討します。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ワークを通じて自己理解、他者理解、相互理解を深め良好な人間関係を構築する</li> <li>2 傾聴・アサーショントレーニングを通じて対人援助の基本スキルを習得する</li> <li>3 問題解決スキル、対立解消スキルを学び他者を支援する実践力を習得する</li> </ol>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・人間関係づくり</li> <li>2 双方向でコミュニケーションが成り立つことに気づく、上手な伝え方を学ぶ</li> <li>3 くり返しの技法と要約の技法を学ぶ</li> <li>4 上手な頼み方・断り方、アイメッセージで自分の気持ちを伝えることができるようにする</li> <li>5 視覚・聴覚・身体覚入力チャンネルを合わせることで信頼関係を築くことを学ぶ</li> <li>6 傾聴技法、質問技法、ブレインストーミングを活用して問題解決スキルを学ぶ</li> <li>7 傾聴技法を使って対立の解消の仕方を学ぶ</li> <li>8 エゴグラムシートを使い自分の心の癖を知る・感情コントロールの方法を学ぶ</li> </ol>								
評価法	レポート、授業態度、出欠席など総合的に評価します。								
受講生への要望	小講義と実習の形で授業が進みます。特に、演習が多いので、体調を整えて意欲をもって授業に参加してください。								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1)ピア・サポートを生かした学級づくりプログラム／山口 権治／明治図書</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1)不登校いじめを起こさない集団づくりーピア・サポートに学ぶー／山口 権治／公益財団法人 モラロジー研究所</p>								



## II. 專 門 基 礎 分 野



	科目	担当者	テキスト	参考文献
解剖生理学Ⅰ	皮膚感覚 体温と調節	森木 睦	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	眼の構造と視覚	櫻井 美晴	系統看護学講座 医学書院 1) 専門基礎分野「解剖生理学」 2) 専門分野 「眼」	
	聴・平衡・嗅覚 咽喉	池上 聰	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	神経系	米澤 慎悟	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	骨格と筋肉	杉山 義晴	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
解剖生理学Ⅱ	呼吸器、呼吸	佐野 武尚	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	血液循環と その調節	影山 茂貴	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	血液と 生体防御機構	岩井 一也	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	腎臓・体液の調節		系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
解剖生理学Ⅲ	口の構造と機能	大山 厳雄	系統看護学講座 医学書院 1) 専門基礎分野「解剖生理学」 2) 専門分野 「歯・口腔」	
	消化器 消化、吸収 栄養、代謝	黒石 健吾	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	自律神経、内分泌 ホルモン分泌調節	清水 洋佑	系統看護学講座 専門基礎分野 1) 「解剖生理学」 医学書院 2) 専門分野 「内分泌・代謝」	
	女性生殖器 受精と発生	水野 薫子	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	
	男性生殖器 生殖機能、 排尿器、排尿	高島 靖	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学」 医学書院	



## 必修科目(2)

科目	解剖生理学Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	医師:佐野 武尚・影山 茂貴 岩井 一也
----	--------	----	---	-----	----	-----	------	-----	-------------------------

講義の概要および学習目標	<p>呼吸は生命を維持するのに最も基本的な行為の一つであり、意識下でもコントロールでき、無意識下でも維持、調節されている。まずはその重要な呼吸を司る臓器のしくみと解剖を理解すること。そして、肺の生理的機能と、どのようにそれを利用し調節、活用しているのかを基本的な事象ごとに理解していくことを主目標とする。さらには代表的な肺疾患を通して、臓器の障害や機能異常がどのように自覚症状や他覚所見につながっていくか理解を深めていく。</p> <p>循環器系の解剖と生理の最低限の知識を身につける。 苦手意識を持たずに学習する。</p> <p>血液疾患の病態生理、診断法、治療法、患者の看護に役立つ血液や免疫、及びその周辺に位置する輸血学の基礎知識を習得する。</p> <p>ヒトの体の60%を占めている水分について、そのバランスのくずれと病気との関係を理解する。 血漿中の主な電解質(NaとK)の濃度調節の重要性を理解する。</p>
講義内容	<p>◎<b>呼吸器・呼吸</b> (10時間) 担当:佐野 武尚</p> <p>A 呼吸器の構造 ①呼吸器の構造 ②上気道 ③下気道と肺 ④胸膜・縦隔</p> <p>B 呼吸 ①内呼吸と外呼吸 ②呼吸器と呼吸運動 ③呼吸器量 ④ガス交換とガスの運搬 ⑤肺の循環と血流 ⑥呼吸運動の調節 ⑦呼吸器系の病態生理</p> <p>◎<b>血液循環とその調節</b> (12時間) 担当:影山 茂貴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心臓の解剖、構造</li> <li>・ 心臓の生理</li> <li>・ 末梢循環の構造</li> <li>・ 血液循環とその調節</li> </ul> <p>◎<b>血液と生体防御機構</b> (6時間) 担当:岩井 一也</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血液の構造、赤血球、血小板、好酸球、リンパ球の機能</li> <li>・ 輸血(赤血球輸血、血小板輸血、血液型、輸血の副作用、Rh型、不適合輸血、緊急時の輸血、交差適合試験)</li> <li>・ 免疫(液性免疫、細胞性免疫、免疫不全)</li> <li>・ HIV感染症とエイズ</li> <li>・ 血栓と止血(血液凝固カスケード、血友病)</li> <li>・ 造血幹細胞移植(自家末梢血幹細胞移植、血縁者間骨髄移植、骨髄バンク、非血縁者間骨髄移植、臍帯血移植)</li> </ul> <p>◎<b>腎・泌尿器 体液の調整</b> (2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水分バランスのくずれと病気との関係</li> <li>・ 血漿中の電解質の濃度調節</li> </ul>
評価法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席状況、授業態度を重視する。 特に授業中の質問に対しての返答の姿勢(正解の有無は問わず)</li> <li>・ 疑問点を発する能力・討論する能力・人の話を正確に理解する能力</li> <li>・ 筆記試験</li> </ul>
受講生への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遅刻せず、休まず出席すること。</li> <li>・ 解らないところは積極的に質問すること。</li> <li>・ 居眠り厳禁。</li> <li>・ 何にでも参加して勉強しよう。</li> <li>・ 「？」と「！」を自分で探そう。思ったことはその場で言おう。</li> <li>・ あらかじめ、テキストを通読しておくことが望ましい。</li> </ul>

### 必修科目(3)

科目	解剖生理学Ⅲ	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	医師: 大山 巖雄・黒石 健吾 清水 洋佑・水野 薫子 高島 靖
----	--------	----	---	-----	----	-----	------	-----	--

講義の概要および学習目標	<p>口腔・咽頭・食道各々構造と機能について学ぶ。 消化器系の器官の一つとして口腔・咽頭・食道機能と構造を理解し、他の消化器系の器官との関連を考えながら機能を学ぶ。</p> <p>消化器系の構造と機能について学ぶ。</p> <p>ホメオスタシスとこれを維持する自律神経系、内分泌系の機能を理解する。 ホルモンの分泌・調整と機能亢進・低下が人体に与える影響について理解する。</p> <p>女性生殖器の解剖と生理学を理解する。 受精～胎児の発生について学ぶ。</p> <p>腎泌尿器系の構造と機能を学ぶ。 医療現場で仕事をするうえで最低必要な泌尿器科の基礎知識を身につける。</p>
講義内容	<p>◎<b>口の構造と機能</b> (2時間) 担当: 大山 巖雄</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔の構造と機能</li> <li>・咽頭と食道の構造と機能</li> </ul> <p>◎<b>消化器系</b> (10時間) 担当: 黒石 健吾</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食道、胃、小腸、大腸、肝、胆、膵、腹膜の解剖と生理</li> <li>・蛋白質、脂肪、炭水化物の代謝</li> </ul> <p>◎<b>自律神経、内分泌、ホルモン分泌調節</b> (10時間) 担当: 清水 洋佑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホメオスタシス 自律神経と内分泌総論</li> <li>・甲状腺、副甲状腺、膵臓</li> <li>・副腎、性腺、内分泌以外のホルモン</li> <li>・視床下部-下垂体系</li> <li>・ホルモン分泌調節</li> </ul> <p>◎<b>生殖器系・人体の発生</b> (4時間) 担当: 水野 薫子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性生殖器の解剖</li> <li>・月経周期と性ホルモン調節</li> <li>・受精過程と胎児の発生・分化</li> </ul> <p>◎<b>男性生殖器、生殖機能、排尿器、排尿</b> (4時間) 担当: 高島 靖</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泌尿器科関係の解剖生理</li> <li>・尿路、性器の先天異常</li> </ul>
評価法	出席状況・聴講の態度・筆記試験
受講生への要望	遅刻せず、休まず出席すること。 予習を行い、質問等があれば講義の中で質問して欲しい。

## 必修科目(4)

科目	看護のための人間論	単位	1	時間数	30	開講期	1年前期	担当者	看護師:脇田 由紀子 山口 一世 中村 泉
講義の概要および学習目標	<p>看護は対象の生命力の消費を最小にするよう生活過程をととのえることである。つまり、対象に起きている生命力を消費させている事実注目し、その事実と生活のあり方を重ねる。そうすることで、看護の力をどこに注げば対象が健康のよい状態に向かうのか判断し実践できる。看護を行うためには、対象への看護の必要性が浮かび上がるような人間のみつめ方を習得する必要がある。</p> <p>この科目では、看護の対象である人間の健康のよい状態に注目する。健康のよい状態で生活する人間本来の姿を描きながら、人間の身体と24時間繰り返される生活のあり方を看護の視点で見つめ、健康と生活がどのようにがっているのか解いていく。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人間が健康のよい状態であるとはどういうことが明らかにする</li> <li>2 人間が健康のよい状態を保つためには、どのような生活をすればよいのか看護の視点で考える</li> </ol>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護のための人間論 健康のよい状態とは</li> <li>2 恒常性の維持と細胞の代謝</li> <li>3・4 『換気と保温』が大事な理由 わたしの生活は大丈夫?? (GW)</li> <li>5 生命誕生</li> <li>6 胸部(生命の源)にある器官の働きと生活</li> <li>7・8 人間が健康のよい状態である“めぐり”とは? (GW)</li> <li>9 口腔から肛門まで(食と排泄)にある器官の働きと生活</li> <li>10・11 健康のよい状態であるためには、消化管をどう働かせるとよいのか? (GW)</li> <li>12・13 沈黙の臓器はどのように内部環境を整えているのか? (GW)</li> <li>14 腹部(内部環境の働き)にある器官の働きと生活</li> <li>15 提案書作成</li> </ol>								
評価法	グループワークの参加状況、グループワークの成果物、個人レポートを総合して評価します								
受講生への要望	この科目は、グループワークを行いながら人間の健康な生活についてみつめていきます。既習の解剖生理学や生物学、生化学などの知識を大いに活用し、主体的に取り組んでください。人間はどのように生活すれば健康のよい状態に向かうのか、自らの生活をも振り返ってください。そして、健康のよい状態を保つための生活を自分自身に提案してみてください。								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)ナースが視る人体／薄井 坦子／講談社</li> <li>2)ナースが視る病気／薄井 坦子／講談社</li> <li>3)看護覚え書／フロレンス・ナインチンゲール 訳 湯楨 ます他／現代社</li> </ol>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)解剖生理学 人体の構造と機能①／坂井 建雄、岡田 隆夫／医学書院</li> <li>2)看護の生理学(1)(2)(3)人間をみる看護の視点／薄井 坦子、瀬江 千史／現代社</li> <li>3)看護 形態機能学／菱沼典子／日本看護協会出版会</li> <li>4)看護学生、宇宙を学ぶ／小河一敏／アノック</li> </ol>								

## 必修科目(5)

科目	生化学	単位	1	時間数	30	開講期	1年 前期	担当者	竹内 英之 紅林 佑希		
講義の概要および学習目標	<p>生化学は、生命現象を化学的に解明する学問分野であり、これから学ぶ専門分野の講義を理解するための基礎知識の習得を目標としています。</p> <p>生化学を学ぶことによって、人間のからだがどのように維持されているか、また各種臓器の機能がどのように調節されているかを知ることができ、さらにはいかにして病気になるかを考えることができるようになります。特に生体を構成している物質とその代謝について詳しく勉強します。</p> <p>目標 1 生体を構成する物質について理解する。                  2 遺伝情報とその発現について理解する。                  3 生体内の物質代謝を酵素の働きとともに理解する。</p>										
講義内容	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">                     1 生化学を学ぶための基礎知識                      2 代謝の基礎、酵素                      3 代謝の基礎、補酵素、ミネラル                      4 糖質の構造、機能、代謝                      5 脂質の構造、機能、代謝                      6 タンパク質の構造、機能、代謝                      7 遺伝子と核酸                      8 遺伝子の複製、修復、組み換え                      9 転写、DNAのプログラミング、発現調節                      10 翻訳と翻訳後修飾                      11 シグナル伝達                      12 内分泌の生化学的基盤                 </td> <td style="width: 50%; border: none; vertical-align: top;">                     13 がんの生化学                      14 まとめ                      15 終了試験                 </td> </tr> </table>									1 生化学を学ぶための基礎知識 2 代謝の基礎、酵素 3 代謝の基礎、補酵素、ミネラル 4 糖質の構造、機能、代謝 5 脂質の構造、機能、代謝 6 タンパク質の構造、機能、代謝 7 遺伝子と核酸 8 遺伝子の複製、修復、組み換え 9 転写、DNAのプログラミング、発現調節 10 翻訳と翻訳後修飾 11 シグナル伝達 12 内分泌の生化学的基盤	13 がんの生化学 14 まとめ 15 終了試験
1 生化学を学ぶための基礎知識 2 代謝の基礎、酵素 3 代謝の基礎、補酵素、ミネラル 4 糖質の構造、機能、代謝 5 脂質の構造、機能、代謝 6 タンパク質の構造、機能、代謝 7 遺伝子と核酸 8 遺伝子の複製、修復、組み換え 9 転写、DNAのプログラミング、発現調節 10 翻訳と翻訳後修飾 11 シグナル伝達 12 内分泌の生化学的基盤	13 がんの生化学 14 まとめ 15 終了試験										
評価法	終了試験										
受講生への要望											
テキスト	書名／著者名／発行所 系統看護学講座 専門基礎分野「生化学」／畠山 鎮次 /医学書院										
参考文献	書名／著者名／発行所										

## 必修科目(6)

科目	病理学	単位	1	時間数	20	開講期	1年 後期	担当者	医師：森木 利昭
講義の概要および学習目標	病理学を通して疾患の形態学的な変化を学び、基本的な病気を理解することを目標とする。								
講義内容	1 病理検査法 2 病理学総論 3 病理学各論: 主要な疾患 4 その他								
評価法	筆記試験で評価するが、出席状況、授業態度も考慮する。								
受講生への要望	講義内容を教科書・配布資料で復習してください。 医療現場における病理の仕事を身近に感じてほしい。								
テキスト	書名／著者名／発行所 系統看護学講座 専門基礎分野「病理学」／医学書院								
参考文献	書名／著者名／発行所								

「病態生理と治療」 使用テキスト・参考文献 一覧

◆ 病態生理と治療Ⅰ

科目	担当者	テキスト：書名・著者・発行所	参考文献：書名・著者・発行所
皮膚疾患	森木 睦	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「皮膚」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 14 『皮膚科』 第1版 MEDIC MEDIA
耳鼻咽喉疾患	池上 聡	1) 系統看護学講座 専門分野 「耳鼻咽喉」 医学書院	1) 「よくわかる嚙下障害」 藤島一郎 永井書店 2) 病気がみえる Vol. 13 『耳鼻咽喉科』 第1版 MEDIC MEDIA
眼疾患	櫻井 美晴	1) 系統看護学講座 専門分野 「眼」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 12 『眼科』 第1版 MEDIC MEDIA
脳神経疾患	石黒 光紀	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「脳・神経」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 7 『脳・神経』 第2版 MEDIC MEDIA
運動器疾患	梅田 朱音	1) 系統看護学講座 専門分野 「運動器」 医学書院	1) 「看護のための最新医学講座 第18巻 運動器疾患」 中村利孝 中山書店 2) 「カラー写真で見る骨折・ 脱臼・捻挫」 内田淳生 羊土社 3) 病気がみえる Vol. 11 『運動器・整形外科』 第1版 MEDIC MEDIA

◆ 病態生理と治療Ⅱ

科目	担当者	テキスト：書名・著者・発行所	参考文献：書名・著者・発行所
血液造血器疾患 膠原病 アレルギー疾患	岩井 一也	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「アレルギー・膠原病・感染症」 医学書院 3) 系統看護学講座 専門分野 「血液・造血器」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 5 『血液』 第2版 MEDIC MEDIA 1) 病気がみえる Vol. 6 『免疫・膠原病・感染症』 第2版 MEDIC MEDIA
循環器疾患	杉山 博文	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「循環器」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 2 『循環器』 第5版 MEDIC MEDIA
呼吸器疾患	藤井 雅人	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「呼吸器」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 4 『呼吸器』 第3版 MEDIC MEDIA

◆ 病態生理と治療Ⅲ

科目	担当者	テキスト：書名・著者・発行所	参考文献：書名・著者・発行所
口腔疾患	大山 厳雄	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「歯・口腔」 医学書院	
消化器疾患	木村 領佑	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「消化器」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 1 『消化器』 第6版 MEDIC MEDIA
内分泌疾患	田村 尚久	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「内分泌・代謝」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 3 『糖尿病・代謝・内分泌』 第5版 MEDIC MEDIA
腎・泌尿器疾患	八木橋祐亮	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「病態生理学」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「腎・泌尿器」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 8 『腎・泌尿器』 第3版 MEDIC MEDIA

◆ 病態生理と治療Ⅳ

	担当者	テキスト：書名・著者・発行所	参考文献：書名・著者・発行所
女性生殖器疾患 周産期の異常	水野 薫子 米澤 真澄 杉山 加苗	1) 系統看護学講座 専門分野 「女性生殖器」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「母性看護各論」 医学書院	1) 病気がみえる Vol. 9 『婦人科・乳腺外科』 第4版 MEDIC MEDIA
乳腺疾患	矢崎 真澄	1) 系統看護学講座 専門分野 「女性生殖器」 医学書院	
小児疾患	五十嵐健康 酒井 秀政 芹澤龍太郎 山中 雄城 大井 正 吉岡 耕平	1) 系統看護学講座 専門分野 「小児臨床看護各論」 医学書院 2) こどもの地図帳 講談社	

◆ 病態生理と治療Ⅴ

科目	担当者	テキスト：書名・著者・発行所	参考文献：書名・著者・発行所
精神疾患	中村 幸治 臨床心理士	1) 系統看護学講座 専門分野 「精神看護の基礎」 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 「精神看護の展開」 医学書院	1) 看護のための精神医学 第2版 中井久夫 医学書院

## 必修科目(7)

科目	病態生理と治療 I	単位	1	時間数	30	開講期	1年 後期	担当者	医師: 森木 睦・池上 聰 櫻井 美晴・石黒 光紀 梅田 朱音
講義の概要および学習目標	<p>代表的な皮膚疾患の病態生理と治療法について学ぶ。</p> <p>代表的な耳鼻咽喉科疾患の病態生理と治療法について学ぶ。</p> <p>眼科的疾患とその治療法・治療に際しての看護のポイントを学ぶ。</p> <p>基本的脳疾患の理解。</p> <p>器官の機能上の特徴と、疾患によって生じる機能障害、運動障害、および派生する身体的、心理・社会的な問題点をふまえ、看護を行う際の心得、要領ならびに援助の内容・方法を学習する。</p>								
講義内容	<p>◎<u>皮膚疾患</u> (4時間) 担当: 森木 睦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な皮膚疾患の病態と治療法</li> </ul> <p>◎<u>耳鼻咽喉疾患</u> (4時間) 担当: 池上 聰</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耳鼻咽喉の解剖の復習と耳鼻咽喉疾患の理解</li> </ul> <p>◎<u>眼疾患</u> (2時間) 担当: 櫻井 美晴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・眼瞼の炎症性疾患、白内障、緑内障、網膜剥離といった代表的疾患を中心とした疾患概念、治療法、看護のポイント</li> </ul> <p>◎<u>脳・神経疾患</u> (12時間) 担当: 石黒 光紀</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的脳疾患の理解とその治療法</li> </ul> <p>◎<u>運動系疾患</u> (8時間) 担当: 梅田 朱音</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・骨折と骨粗鬆症</li> <li>・変形性関節症、関節リウマチ</li> <li>・骨髄炎、骨腫瘍、下肢切断</li> <li>・脊髄損傷、腰椎椎間板ヘルニア</li> </ul>								
評価法	出席状況・聴講の態度・筆記試験								
受講生への要望	休まず出席すること。 講義内容が試験に出ます。講義をしっかりと聴いてほしい。 予習を行い、質問等があれば講義の中で質問して欲しい。								

## 必修科目(8)

科目	病態生理と治療Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	1年後期	担当者	医師：岩井 一也 杉山 博文 藤井 雅人
講義の概要および学習目標	<p>一般に疾患頻度が少なく、分類が複雑なために、難解とされ、敬遠されやすい血液疾患、免疫疾患の病態生理を系統的にシンプルに理解することを目標とする。基礎がしっかりと理解されると、診断・治療さらには看護の重要ポイントを体感することが可能となる。</p> <p>循環器系疾患の病態生理及び治療に対する理解。</p> <p>疾患については総論、各論方式で説明。                  説明においては全体像が頭の中にイメージできるように流れ図的に説明。                  具体項目は形態(解剖)と対比しつつ、気道疾患、感染症、肉芽腫性疾患、肺間質疾患、肺腫瘍、胸膜疾患、肺循環障害などが主な項目となる。</p>								
講義内容	<p>◎<b>血液造血疾患、膠原病、アレルギー疾患</b> (8時間) 担当: 岩井 一也</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貧血の分類、貧血の鑑別診断</li> <li>・鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血の病態生理、診断と治療</li> <li>・再生不良性貧血</li> <li>・骨髄異形成症候群</li> <li>・溶血性貧血(自己免疫性溶血性貧血、球状赤血球症)</li> <li>・急性白血病(急性骨髄球性白血病、急性リンパ性白血病)、</li> <li>・慢性骨髄性白血病とフィラデルフィア染色体、イマチニブの効果</li> <li>・悪性リンパ腫の分類と治療</li> <li>・血栓と止血(血小板減少性紫斑病、播種性血管内凝固症候群の診断と治療)</li> <li>・Coombsによるアレルギーの分類</li> <li>・自己免疫疾患の定義</li> <li>・代表的膠原病である全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、シェーグレン症候群の病態生理と臨床症状</li> <li>・骨髄穿刺&amp;生検の適応と手技</li> <li>・化学療法を受けている患者の看護</li> </ul> <p>◎<b>循環器疾患</b> (8時間) 担当: 杉山 博文</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 虚血性心疾患    2. 心不全 心筋症 大動脈疾患</li> <li>3. 不整脈とBLS    4. 先天性心疾患と弁膜症</li> </ol> <p>◎<b>呼吸器疾患</b> (14時間) 担当: 藤井 雅人</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸器疾患について</li> <li>2. 総論、各論に分けて説明</li> <li>3. 主要疾患のイメージを伝える・・・疾患の原因、病態、症状、検査、診断、治療                  最後にどうなるかまでを一連の流れの中でとらえてもらう</li> </ol>								
評価法	出席状況・授業態度・筆記試験								
受講生への要望	あらかじめ、テキストを通読しておくことが望ましい。 基本的なことはテキストで予習してきて下さい。 復習をしっかりとやってください。								

## 必修科目(9)

科目	病態生理と治療Ⅲ	単位	1	時間数	30	開講期	1年後期	担当者	医師: 大山 厳雄・木村 領佑 田村 尚久・八木橋 祐亮
----	----------	----	---	-----	----	-----	------	-----	---------------------------------

講義の概要および学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯・口腔の症状と病態生理</li> <li>・歯・口腔疾患の治療と検査・処置</li> <li>・解剖生理学と関連させ、歯、口腔に健康障害を生じたときの、病態生理、治療・検査・処置を学ぶ。また疾患の病態を理解し消化器機能への影響も考える。</li> <li>・消化器の病態生理とその治療法を学ぶ。</li> <li>・内分泌・代謝疾患: 疾患の特性、検査や治療の組み立ての概要を学び理解し、患者にもっとも近い存在として、チーム医療の中での診療の中核的役割を担い、また、いわゆる生活習慣病などにおいて適切な生活指導をすることができる。</li> <li>・医療現場で仕事をするうえで最低限必要な泌尿器科の基礎知識を身につける。</li> </ul>
講義内容	<p>◎<u>口腔疾患</u> (4時間) 担当: 大山 厳雄</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯・口腔の症状と病態生理</li> <li>・歯・口腔疾患の治療と検査・処置</li> </ul> <p>◎<u>消化器疾患</u> (10時間) 担当: 木村 領佑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消化器疾患の病態生理・診断・治療</li> <li>・消化器疾患 各論</li> </ul> <p>◎<u>内分泌・代謝疾患</u> (8時間) 担当: 田村 尚久</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代謝疾患(糖尿病、高脂血症、痛風、肥満)および内分泌疾患の理解、検査、治療法</li> </ul> <p>◎<u>腎・泌尿器疾患</u> (8時間) 担当: 八木橋 祐亮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泌尿器科関係の検査</li> <li>・尿路感染症</li> <li>・尿路性器の腫瘍</li> <li>・尿路結石症</li> <li>・その他</li> </ul>
評価法	出席状況および筆記試験
受講生への要望	<p>休まず出席すること。</p> <p>糖尿病は国民病とも言えるほど増加しています。</p> <p>自分自身も疾患を発症しやすい体質を持っていると思って学習してください。</p> <p>医療は常に技術が進歩している。教科書に記載されたときにはすでに古い情報となっていることも多い。講義ではできるだけ新しい内容を話すつもりです。</p> <p>講義を中心に勉強していただきたい。</p>

## 必修科目(10)

科目	病態生理と治療Ⅳ 周産期の異常 女性生殖器疾患 乳腺疾患・小児疾患	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	医師：水野 薫子・米澤 真澄 矢崎 真澄・五十嵐健康 酒井 秀政 芹澤龍太郎 山中 雄城 大井正 吉岡耕平 助産師：杉山 加苗
----	--	----	---	-----	----	-----	------	-----	---

講義の概要および学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産婦人科領域における診察、検査法を学び、婦人科疾患を把握する。</li> <li>・妊娠・分娩の異常、ハイリスク妊娠を理解する。</li>   <li>・乳腺疾患のうち、乳がん(乳腺悪性疾患)</li> <li>・乳腺良性腫瘍、乳腺良性腫瘍性疾患</li> <li>・発生、発育の異常、炎症について学習する。</li>   <li>・小児の看護の実践に必要な基礎知識と技術の習得を目指す。 具体的には知識の羅列ではなく、個々の症例の問題点に対して柔軟に対応できるような基礎的医学知識と思考プロセスの獲得を目標とする。</li> </ul>
講義内容	<p>◎女性生殖器疾患 (12時間) 担当:水野 薫子・米澤 真澄・杉山 加苗</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性生殖器疾患の診察・女性生殖器疾患の症状</li> <li>・女性生殖器疾患・周産期の検査・処置</li> <li>・疾患の理解 : 性分化異常(奇形) 臓器別疾患(外陰・膣・子宮・卵管・卵巣腫瘍・絨毛性疾患等) 機能的疾患(月経異常・不妊症・生殖補助技術・不育症)</li>   <li>・妊娠期の感染症</li> <li>・妊娠中の異常(流産・早産・異所性妊娠・羊水過少・過多・妊娠高血圧症候群・産科DIC・IUGR・多胎)</li> <li>・分娩時の異常(前置胎盤・常位胎盤早期剥離・回旋異常・CPD・微弱陣痛・吸引分娩・鉗子分娩・帝王切開・弛緩出血 )</li> </ul> <p>◎乳腺疾患 (2時間) 担当:矢崎 真澄</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳がんの疫学・乳がんの診断・乳がんの治療</li> <li>・線維腺腫・葉状腫瘍・乳管内乳頭腫</li> </ul> <p>◎小児疾患(16時間) 担当:五十嵐健康・酒井秀政・芹澤龍太郎・山中雄城・大井正・吉岡耕平</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未熟児新生児疾患、先天奇形、遺伝染色体疾患</li> <li>2. 感染症</li> <li>3. 免疫アレルギー疾患</li> <li>4. 神経疾患、心身症</li> <li>5. 内分泌代謝疾患、腎疾患、血液疾患、循環器疾患、消化器疾患</li> <li>6. 関連境界領域</li> </ol>
評価法	出席状況および筆記試験
受講生への要望	<p>遅刻せず、休まず出席すること。</p> <p>授業中に示す重要なポイント、および基本的な思考方法を中心に習得してください。</p>

## 必修科目(11)

科目	病態生理と治療Ⅴ 精神疾患	単位	1	時間数	20	開講期	2年 後期	担当者	医師:中村 幸治 臨床心理士
----	------------------	----	---	-----	----	-----	----------	-----	-------------------

講義の概要および学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害の疫学、症状、診断、治療、経過と予後について学習する。</li> <li>2. 看護実践のために必要な知識を習得し、医療チームの一員として精神疾患の看護が担える基礎的能力を養う。</li> <li>3. 精神的問題の重要性を認識する。</li> <li>4. 「こころの病」への興味・理解を深める。</li> </ol>
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神障害の理解(精神科医療の歴史、精神障害者の現状、精神疾患のとらえ方、精神障害の原因・分類)</li> <li>2 精神障害者の抱える症状の理解</li> <li>3 精神障害の診断と検査</li> <li>4 精神障害の治療(薬物療法、精神療法、電気けいれん療法、社会復帰療法)</li> <li>5 主な疾患の診療(器質性精神障害、依存症、総合失調症、気分障害、不安障害、適応障害、パーソナリティ障害、解離性・転換性障害、摂食障害、児童・思春期の精神障害)</li> <li>6 コンサルテーション・リエゾン精神医学</li> <li>7 患者家族の理解とその援助 (担当:中村幸治 18時間)</li>   <li>8 心理検査 うつ病診断認知療法 (担当:臨床心理士 2時間)</li> </ol>
評価法	筆記試験
受講生への要望	<p>遅刻せず、休まず出席すること。</p> <p>授業中に示す重要なポイント、および基本的な思考方法を中心に習得してください。</p>

## 必修科目(12)

科目	看護のための疾病論	単位	1	時間数	30	開講期	1年 後期	担当者	看護師:松永 貴子 矢野 玲枝・杉山 加苗 松永しのぶ・松本 理恵
講義の概要および学習目標	<p>看護師はどのように病気の人をみつめたらよいのか、この科目では、病気のみつめ方について学ぶ。健康のよい状態から病気への変化のプロセスの理解を深め、対象のどのような生活が、健康状態の変化につながったのかを理解する。さらに、生活との関連において、生命力を脅かすものを発見して、生活過程をととのえる方向性を見出せるような病気のとらえ方を習得する。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護する立場から、病気のみつめ方を習得する</li> <li>2 対象がよりよく生きるためにどのように生活すればよいのかを思い描き、表現できる</li> </ol>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 科目概要 看護師の病気のみつめ方</li> <li>2・3・4 看護の視点でみつめる「骨折」とは？</li> <li>5・6・7 看護の視点でみつめる「脳卒中」とは？</li> <li>8・9・10 看護の視点でみつめる「がん」とは？</li> <li>11・12・13 看護の視点でみつめる「糖尿病」とは？</li> <li>14・15 科目まとめ ワーク・発表</li> </ol> <p>* 2～13は3回を1単元として1回目;講義・グループワーク、2回目;グループワーク、3回目グループ発表とまとめをおこなう</p>								
評価法	<p>個人課題・グループワークの参加状況・グループワークの成果物・単元終了後レポートを総合評価します。 (※ピア評価・教員による評価の視点をルーブリックにて示します。)</p>								
受講生への要望	<p>この科目は、個人ワーク・グループワークを行いながら病気のみつめ方について学んでいきます。解剖生理学や病態生理と治療などの既習の知識を大いに活用し、主体的に取り組んでください。そして、この科目で学んだことをもとに、実習でも活かしていけるように学んでいきましょう。尚、個人課題・グループ課題などの提出物はGoogle Classroomを利用することがあります。提出方法については授業の中で説明しますが、学校指定の書式設定で提出してもらいますので、準備を整えておいてください。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所          ナースが視る病気／薄井 坦子／講談社          ナースが視る人体／薄井 坦子／講談社          病気の地図帳／山口 和克／講談社</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>単元ごと、授業の中で紹介します。</p>								

## 必修科目(13)

科目	微生物学	単位	1	時間数	30	開講期	1年 後期	担当者	内藤 博敬
講義の概要および学習目標	<p>人間の営みと微生物との関係を理解するとともに、微生物の分類、微細構造・形態学的特徴、生物学的特徴、生化学的性状、増殖についての基礎知識を習得する。また、様々な病原微生物が、どのような感染症を引き起こすかについて、感染症の感染源、感染経路、診断法、滅菌・消毒法を含む感染防御法、感染防御免疫、化学療法薬についての理解を深め、看護師として必要な行動がとれるための知識を習得する。</p> <p>《学習目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 微生物の種類毎の特徴について説明できる。</li> <li>2 感染防御機構について説明できる。</li> <li>3 各々の微生物の感染メカニズムを理解し、検査、治療や予防法について意義を説明できる。</li> <li>4 日本の感染症対策およびその問題点について認識し、以降の科目へ繋げることができる。</li> </ol>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 微生物学概論</li> <li>2 微生物と微生物学</li> <li>3 細菌1</li> <li>4 細菌2</li> <li>5 ウイルス真菌、原虫および寄生虫</li> <li>6 真菌、原虫および寄生虫</li> <li>7 感染と感染症</li> <li>8 感染経路</li> <li>9 生体防御機構1(自然免疫)</li> <li>10 生体防御機構2(獲得免疫)</li> <li>11 細菌、ウイルス、真菌の感染メカニズム</li> <li>12 感染症予防/消毒・滅菌</li> <li>13 感染症の検査と治療</li> <li>14 感染症の現状と対策</li> <li>15 期末試験</li> </ol> <p>注)上記講義項目は、内容によって時間配分が異なります。また、感染症の流行などによって、講義内容を一部変更する場合があります。</p>								
評価法	<p>期末試験および授業態度(レポート、ミニテスト、アンケート)の総合評価とする。なお、欠席(忌引き、インフルエンザ・コロナ等の公欠を除く)は授業態度の減点要素とし、3分の1以上欠席した者は再履修とする。</p>								
受講生への要望	<p>”微生物学をはじめとする科学的な知識を体系的に理解する”ためには、学生として学習意欲を高め、基礎知識を習得することが大切です。</p> <p>予定している15回の講義だけでは、十分に理解することは難しく、また、日々新たな情報や変化のある学問領域でもあります。</p> <p>予習、復習、情報収集等、努力を怠らないようにしましょう。</p> <p>少しでも微生物を身近に感じてください。</p>								
テキスト	<p>書名/著者名/発行所          系統看護学講座 専門基礎分野「微生物学」/ 南嶋洋一、吉田真一ほか/ 医学書院</p>								
参考文献	<p>書名/著者名/発行所          からだをまもる免疫のふしぎ/日本免疫学会/羊土社          はじめの一步のイラスト感染症・微生物学/本田武司編/羊土社          わかる!身につく!病原体・感染・免疫/藤本秀士編著/南山堂</p>								

## 必修科目(14)

科目	薬理学	単位	1	時間数	30	開講期	1年 後期	担当者	池田 雅彦
講義の概要および学習目標	<p>現在、病気に対し様々な薬が使われている。また新しい薬も次々と開発されている。これらの薬は、使い方次第では、病気に対し有効に作用するどころか、逆に毒性を示すことがある。</p> <p>薬理学ではこれらの薬を使用したとき、からだの中でどのような作用、あるいは副作用を及ぼすか、またある効果を期待するとき、どのような作用の薬を使用すればよいのかについて学び、薬に対する基礎知識を養う。</p>								
講義内容	<p>薬理学総論 薬理学各論(抗感染症薬、抗がん薬、免疫治療薬、抗アレルギー薬・抗炎症薬、末梢での神経活動に作用する薬物、中枢神経系に作用する薬物、心臓・血管系に作用する薬物、呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物、物質代謝に作用する薬物)</p>								
評価法	<p>中間試験を3回に分けて行い、その平均点で評価する。</p>								
受講生への要望	<p>薬理学を学ぶには、生化学、解剖生理学などの知識が必要になるので、これらも合わせて学ぶことが大切である。身近な薬に興味を持ち、たとえば病院で薬を処方されたらすぐ一般名、薬効、作用機作など調べる姿勢が欲しい。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 系統看護学講座 専門基礎分野 「薬理学」／吉岡 充弘 他／医学書院</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所 1)「NEW薬理学」／田中 千賀子・加藤 隆一／南江堂 2)「カッツング薬理学」／Bertram. G. Katzung他／丸善 3)「治療薬マニュアル」／北原 光夫／医学書院 4)「臨床で役立つ薬の知識」／折井 孝男／Gakken</p>								

## 必修科目(15)

科目	臨床薬理学	単位	1	時間数	15	開講期	2年前期	担当者	薬剤師: 真柄 佳享 櫻井 貴斗
講義の概要および学習目標	<p>「薬理学」で学んだ薬の知識を、実際に臨床現場で適用していく為に必要な知識を学ぶ機会となります。</p> <p>同じ薬でもその効果は、厳密には一人一人異なります。時には、Aさんには有効なものがBさんには無効であったり、有害である事もあります。この現象を理解する為には、患者個々の特性を考える必要があります。</p> <p>薬は両刃の剣です。薬の有益な効果を最大限に引き出し、有害な作用を最小限に食い止める為、患者に接する時間が最も長い看護師を目指している皆さんに期待しています。看護師も、適切な薬物療法を遂行するうえでのキーパーソンなのです。</p>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 薬物治療の基礎 薬の取り扱い、薬物動態、安全管理 等</li> <li>2 対症療法薬 解熱鎮痛薬、制吐薬、緩下薬、鎮咳薬、鎮静薬、睡眠薬 等</li> <li>3 循環器疾患、呼吸器疾患の薬</li> <li>4 消化器疾患、腎臓疾患、内分泌代謝疾患の薬</li> <li>5 整形領域疾患、神経疾患、精神疾患の薬</li> <li>6 循環動態薬(注射)、輸液、インスリン注射</li> <li>7 抗精神病薬(臨時投与)、抗菌薬、ステロイド薬、周術期に使用する薬</li> </ol>								
評価法	期末試験								
受講生への要望	<p>「薬理学」で学んだ内容を復習しておいていただければ、本講義の理解がスムーズになります。解剖生理学や生化学の知識についても同様です。</p> <p>疑問が生じたらそのまま放置せずに、その日のうちに解決する癖をつける事も必要です。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 系統的看護学講座 別巻「臨床薬理学」／井上 智子 他／医学書院</li> <li>2) 系統看護学講座 専門基礎分野「薬理学」／吉岡 充弘 他／医学書院</li> </ol>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「臨床で役立つ薬の知識」改訂版／監修: 折井 孝男／学研</li> <li>2) 臨床場面でわかる! くすりの知識／監修: 五味田 裕／南江堂</li> <li>3) 疾病の回復を促進する薬／福永 浩司 他／NHK出版</li> </ol>								

## 必修科目(16)

科目	看護サイエンス	単位	1	時間数	15	開講期	3年前期	担当者	木野 仁
講義の概要および学習目標	<p>この科目は単なる物理学ではなく、強いて言えば「看護物理学」である。看護と物理学は数多くの接点を持ち、それを知ることによって、より安定・安楽な看護が可能になったり、ときには医療ミスを防ぐ結果につながることも少なくないのである。体位換をはじめとする看護技術は力学的な原理を知らなければ、単に技術の伝承にすぎず、技術の改善や応用は不可能である。また圧力は血圧・吸引・ポンプ・採血・低圧持続吸引装置の原理など多くの場面で看護と関わりを持ち、これらの知識が不十分であると、事故につながることもある。</p> <p>ここでは看護における「物理」とそれを応用したエビデンスを学ぶ。</p>								
講義内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動と力(力, 速度, 加速度, 力のモーメント, エネルギー, 圧力など)</li> <li>・熱(熱, 温度, 仕事など)</li> <li>・光と音(波, エコー, 音, 光の干渉など)</li> <li>・電気と磁気(電流, 電圧, 抵抗, 磁場など)</li> <li>・放射線(放射線の人体の影響, 医療における利用など)</li> </ul>								
評価法	筆記試験								
受講生への要望	<p>全8回の講義ではあるが、非常に多くのことを学ぶ。しかしながら、決して難しい内容ではなく、物理学の知識が皆無であっても、中学時代に学んだ理科と数学の知識をベースにして十分理解できる内容である。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 物理学 (系統看護学講座基礎分野)/豊岡 了(代表著者)/医学書院</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所 1) 完全版 ベッドサイドを科学する/平田 雅子/学研 2) なぜ?を知ったらこわくないベッドサイドのサイエンス/平田 雅子/日本看護協会</p>								

## 必修科目(17)

科目	保健医療論	単位	1	時間数	15	開講期	1年 前期	担当者	医師:村田耕一郎
講義の概要および学習目標	現代の医療の制度とそれに伴う問題について知識を得る。								
講義内容	1 疾病とは何か 治療とは何か 2 現代日本の社会保障、医療保険 3 日本の医療の現状と国民の意識 4 日本の医療の問題点 5 医療者の役割 6 医療安全 7 医の倫理								
評価法	筆記試験と出席								
受講生への要望	現在の医療制度で、まだ結論の出ていない問題が多くあることを認識する。医療者であることを自覚する。								
テキスト	書名／著者名／発行所 1) 系統看護学講座 専門基礎分野 医療概論／康永秀生／医学書院 2) 系統看護学講座 別巻 総合医療論／小泉俊三ほか／医学書院								
参考文献	書名／著者名／発行所								

## 必修科目(18)

科目	栄養管理特論	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	久保田 美保子
講義の概要および学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージ別に食生活の問題を理解するために、身体と栄養素の機能、体内での役割、食事摂取基準、食品の特徴などの基礎知識を学び、疾病予防、治療を関連づけて健康な生活を営むための「食」について考察する。</li> <li>・疾病の栄養管理、食事療法は治療の一環であり、また看護のうえでも患者サービスの重要な一翼を担うものである。それを学び、地域医療における栄養ケア・マネジメント、さらに多職種との栄養管理チームへ参画するための知識を身につける。</li> </ul>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護と栄養 チーム医療</li> <li>2 栄養素の栄養的役割</li> <li>3 食物の消化、栄養素の吸収・代謝</li> <li>4 エネルギー代謝</li> <li>5 栄養ケア・マネジメント</li> <li>6 栄養状態の評価・判定</li> <li>7 ライフステージと栄養</li> <li>8 栄養補給法</li> <li>9～14 疾患別栄養食事療法の実際</li> <li>15 医療・介護保険制度と栄養管理 まとめ</li> </ol>								
評価法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験(栄養学、栄養食事療法)</li> <li>・レポート、授業態度 以上の総合評価とします</li> </ul>								
受講生への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始、終了時に挨拶すること。</li> <li>・休まず出席すること。</li> <li>・生化学、病態の授業と関連づけて理解を深めて下さい。</li> </ul>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 系統看護学講座 専門基礎分野「栄養学」／小野 章史ほか／医学書院</li> <li>2) 系統看護学講座 別巻「栄養食事療法」／足立香代子ほか／医学書院</li> <li>3) 「糖尿病食事療法のための食品交換表」第7版／日本糖尿病学会 文光堂</li> <li>4) 「八訂準拠 ビジュアル食品成分表」／大修館書店</li> </ol>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p>								

## 必修科目(19)

科目	社会福祉論 I	単位	1	時間数	15	開講期	1年 後期	担当者	東野 定律 木村 綾 天野 ゆかり
講義の概要および学習目標	<p>目標 我が国における社会福祉、社会保障のしくみや特徴について基礎的な知識を習得する。また、少子高齢化、人口減少社会などの社会構造の中において、多様かつ複雑な健康ニーズ、生活ニーズをもつ対象者に対するの社会保障制度の役割について理解する。</p> <p>概要 社会福祉の基礎的な知識を習得するために、社会保障のしくみや関連する制度や支援のあり方等について解説する。少子高齢化、貧困、社会保障財源のひっ迫など社会が抱える様々な課題を提示しながら、看護職に求められる視点や役割について考察する。</p>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障と社会福祉 ※年金制度と雇用保険制度を含む (東野)10/3(金)3限目</li> <li>2. 医療保険制度と地域医療構想 (東野)10/3(金)4限目</li> <li>3. 生活保護法と生活困窮者自立支援法(木村)10/17(金)1限目</li> <li>4. 障害者福祉(木村)10/17(金)2限目</li> <li>5. 児童福祉 (木村)10/24(金)1限目</li> <li>6. 地域福祉(木村)10/24(金)2限目</li> <li>7. 介護保険制度と地域包括ケアシステム(天野)10/31(金)3限目</li> <li>8. まとめ・テスト(天野)10/31(金)4限目</li> </ol>								
評価法	受講態度、課題レポート、試験により総合的に判断する								
受講生への要望	<p>社会の変化に伴い、看護師の役割や就労場所も多様化してきています。医療機関に限らず、在宅や施設など、対象者の生活の場や個別性に応じたケアが期待されています。このような多様化・複雑化する対象者のニーズに応えるためにも、関連する社会福祉制度やそのしくみについてしっかり学んでください。</p>								
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「社会保障・社会福祉」／福田 素生／医学書院 ※講義時適宜資料を配布する</p>								
参考文献	書名／著者名／発行所								

## 必修科目(20)

科目	社会福祉論Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講期	2年前期	担当者	東野 定律 木村 綾 天野 ゆかり
講義の概要および学習目標	<p>目標 保健、医療、福祉、介護などにかかわる様々な制度、サービスの現状と課題を学び、具体的な事例を通して理解を深める。</p> <p>概要 少子高齢化が急速に進展する現代社会において、健康、医療、福祉、介護へのニーズが高まっている。特に、地域における医療と福祉、介護サービスの連携の重要性が増しているが、医療、福祉の人材不足や各種制度における対応の課題も多い。これらの特徴をふまえ、社会福祉に関連する様々な社会資源や取り組みに関する理解を深め、地域包括ケアシステムにおける多職種の連携や事例展開についてグループで発表、共有する。</p>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1年次(社会福祉論Ⅰ)の振り返り(木村)4/25(金)3限目</li> <li>2. 障害児・者における福祉の動向(木村)4/25(金)4限目</li> <li>6. 権利擁護と成年後見制度(木村)5/2(金)3限目</li> <li>7. 地域における多様な社会資源(木村)5/2(金)4限目</li> <li>4. 地域包括ケアシステムの実践(東野)5/30(金)2限目</li> <li>5. 多職種連携とチームアプローチ(東野)5/30(金)3限目</li> <li>8. 地域共生社会にむけてのコミュニティケア(東野)6/6(金)2限目</li> <li>9. 福祉コミュニティづくり(木村⇒東野)6/6(金)3限目</li> <li>3. 高齢者福祉の動向(天野)6/13(金)3限目</li> <li>10. 福祉・介護人材育成のマネジメント(天野)6/20(金)3限目</li> <li>11. 国際生活機能分類の概念と活用(天野)7/11(金)3限目</li> <li>12. 海外のコミュニティケア(天野)7/11(金)4限目</li> <li>13. 事例検討・グループワーク(木村)7/25(金)3限目</li> <li>14. 発表6/28(木村)7/25(金)4限目</li> <li>15. まとめ、試験(天野)8/1(金)3限目</li> </ol>								
評価法	<p>・授業態度、グループワークの取り組み、試験により総合的に評価する</p>								
受講生への要望									
テキスト	<p>書名／著者名／発行所 1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「社会保障・社会福祉」／ 福田 素生／ 医学書院 ※適宜資料を配布する</p>								
参考文献	<p>書名／著者名／発行所</p>								

## 必修科目(21)

科目	法と関係法規	単位	1	時間数	30	開講期	3年前期	担当者	国京 則幸																				
講義の概要および学習目標	<p>看護という職業と法との関係を理解するために、責任という観点から法の枠組・体系について学び、法的な考え方の基礎を修得する。さらに、医療提供のための制度と医療を保障するための制度全般について学び、あわせて、それら諸制度の関連性・看護の位置付けについても理解する。</p> <p>《学習目標》          看護という職業に携わる者として理解しなければならない法の基礎を学ぶ。          医療を提供する枠組の全体像およびそれぞれのしくみの関連性について理解する。</p>																												
講義内容	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">1 看護と法・法律・概論</td> <td style="width: 50%; border: none;">11 関連法規 その1</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">2 看護師の法的位置づけ(資格)</td> <td style="border: none;">12 関連法規 その2</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">3 看護師の法的位置づけ(業務・総論)</td> <td style="border: none;">13 関連法規 その3</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">4 看護師の業務と責任(責任体系)</td> <td style="border: none;">14 関連法規 その4</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">5 看護師の業務と責任(民事責任)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">6 看護師の業務と責任(民事責任)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">7 看護師の業務と責任(刑事責任)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">8 看護師の業務と責任(刑事責任)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">9 医療の提供と看護(医療制度)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border: none;">10 医療の提供と看護(医療保障制度)</td> <td></td> </tr> </table>									1 看護と法・法律・概論	11 関連法規 その1	2 看護師の法的位置づけ(資格)	12 関連法規 その2	3 看護師の法的位置づけ(業務・総論)	13 関連法規 その3	4 看護師の業務と責任(責任体系)	14 関連法規 その4	5 看護師の業務と責任(民事責任)		6 看護師の業務と責任(民事責任)		7 看護師の業務と責任(刑事責任)		8 看護師の業務と責任(刑事責任)		9 医療の提供と看護(医療制度)		10 医療の提供と看護(医療保障制度)	
1 看護と法・法律・概論	11 関連法規 その1																												
2 看護師の法的位置づけ(資格)	12 関連法規 その2																												
3 看護師の法的位置づけ(業務・総論)	13 関連法規 その3																												
4 看護師の業務と責任(責任体系)	14 関連法規 その4																												
5 看護師の業務と責任(民事責任)																													
6 看護師の業務と責任(民事責任)																													
7 看護師の業務と責任(刑事責任)																													
8 看護師の業務と責任(刑事責任)																													
9 医療の提供と看護(医療制度)																													
10 医療の提供と看護(医療保障制度)																													
評価法	試験により評価(講義への出席は試験の前提となる)																												
受講生への要望	<p>一方通行の授業ではつまらないので、できるかぎりやりとりしながら理解を深めたいと考えています。したがって、講義に際しては、テキストの該当箇所はあらかじめ通読しておいてください。          なお、講義自体は配布するレジュメにのっって進めます。</p>																												
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <p>1) 系統看護学講座 専門基礎分野 「社会保障・社会福祉」／福田 素生／医学書院          2) 系統看護学講座 専門基礎分野 「看護関係法令」／森山 幹夫／医学書院</p>																												
参考文献																													

## 必修科目(22)

科目	公衆衛生学	単位	1	時間数	15	開講期	3年 後期	担当者	田中 一成 小畑 充彦 中川 美乃里
講義の概要および学習目標	<p>人々の健康は、個人の体質や生活習慣のみで決まるのではなく、自然環境・社会環境・文化的環境などと深く関係している。公衆衛生の目的は、人々の生活の質(QOL)を向上させるために、社会全体で人々の健康の維持・増進のための仕組みを構築することである。その考え方の基盤となる科学的根拠と、その応用としての様々な対策(政策や計画)を理解する。</p>								
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公衆衛生とは 公衆衛生の活動対象</li> <li>2 公衆衛生のしくみ</li> <li>3 集団の健康をとらえるための手法－疫学・保健統計</li> <li>4 環境と健康</li> <li>5 感染症とその予防策</li> <li>6 歯科保健</li> <li>7 食品衛生</li> <li>8 筆記試験</li> </ol>								
評価法	<p>出席状況と授業への取り組み、筆記試験による総合評価とする。</p>								
受講生への要望									
テキスト	<p>書名／著者名／発行所</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 系統看護学講座 専門基礎分野「公衆衛生」／神馬 征峰/医学書院</li> <li>2) 「国民衛生の動向 2023/2024」／厚生労働統計協会</li> </ol>								
参考文献									